

<かいじゅうの森 支援者アンケート>

- ① 仲間で集まって検討する際 ルーチン化しているポイントの基本的流れがあればおしえてください

発表する場合の例でお答え致します。

まず、1冊の絵本を5名ほどで担当ページを振り分け、それぞれ表現してもらいます。具体例として、「3びきのやぎのがらがらどん」であれば、位置や方向など絵に合わせた表現方法になっているか、サインネームが必要であればどのように表わすか、子どもにとって難しい日本語をどのように表現するかなどの観点から、仲間と絵本を分析し検討することによって表現を決めていきます。

ただ、谷川俊太郎の「生きる」や「ぼく」のように、「生」や「死」を扱ったやや抽象的な絵本は、語り手の人生観やことばの解釈の仕方によって、表現方法が異なってきます。なので、これも仲間とともに検討しあい、気になった表現などもあればその場で意見交換し、よりよい表現方法を見つけるようにしています。絵本が伝えようとしていることは何か、子どもにとって絵本の世界に入りやすいかどうかなど、語り手の視点だけでなく、子どもの視点に立って考えることもポイントに仲間と一緒に研鑽しています。

- ② 今まで本読み聞かせて何年目になりましたか？ 自分の子供にもやっていますか？

→20年以上になります。自分の子どもにももちろん読み聞かせを日々おこなっていました。長男が5歳の時、ろう学校から夏休みにグリム童話や昔話のリストが配られ、読み終えたらチェックするという宿題がありました。物語の読み聞かせは長くて大変でしたが、今となっては良い思い出の一つです。特に、花咲じいさんの犬が亡くなった場面では長男が泣きながら聞いていたことが印象に残っています。

- ③ オノマトペの表現を、指文字で表して様子を表現した方がいいのか、様子を表現し、その様子や状況を説明する程度でいいのか、どうでしょう。

→オノマトペは基本的に CL で表現することが多いです。CL は形や質などを描写するように表すのでイメージが伝わりやすいです。雨の手話は2回下に向けて動かすのに対して、「ザーザー」や「しとしと」、「さらさら」は強弱を入れたり、指をやわらかく動かしたりして表します。